

基本構想

- 第1章 基本理念
- 第2章 将来人口
- 第3章 まちづくりの将来像
- 第4章 施策の体系

基本構想

第1章 基本理念

人と自然が輝くまち 美浦

霞ヶ浦の湖岸に位置する美浦村は太古から人が暮らし、豊かな湖岸文化を育んできました。

それは常に水とともに生き、先人に学ぼうとする人々の姿「人と自然が輝くまち 美浦」でもありました。

美しい自然や豊かな歴史を守り育てながら、新しい時代の到来を敏感に感じとったまちづくり。

美浦村は「人と自然が輝くまち 美浦」を目指します。

1 美浦村にある健康的な暮らしを大切にする

美浦村には、霞ヶ浦や里山などの自然、水辺や筑波山などの美しい風景、特徴的な農水産物、陸平貝塚や木原城址などの歴史、全国的にも希有な存在であるJRA美浦トレーニング・センターなど、私たちの健康的な暮らしを育むうえでその基礎となる非常に多くの地域資源があります。

しかし、これらの資源はこれまで当たり前存在していましたが、これからはずっとこのままあり続けるとは限らないものでもあります。

何もしないことで本村の健康的な暮らしが損なわれることから地域をどうやって守るかを考え、行動に移すことが必要であり、本村にある健康的な暮らしを大切にするための仕組みとして、「良いものを守るための決まりやルールを作る」ことや、「重要な資源を施設として整備して保護する」ことなどを目指します。

2 美浦村にない便利な暮らしを取り込む

買い物や通院などの便利さ、まち全体の活気、働く場所、交通施設などの生活基盤などは、私たちが不便なく暮らしを営むうえで必要な都市的な機能であります。

これらの都市機能は、“ない”または“整備水準が低い”ことによって村民に不便を来すものですから、都市機能を村民が利用できるようにするためには、どのような方法があるかを考え、確保することが必要になります。

本村にない便利な暮らしを取り込むための仕組みとして、各種の都市機能について、「周辺都市にある都市機能の有効的な活用」や、「村民が日常的に頻繁に利用する都市機能の村内への導入」などにより、暮らしやすい村を目指します。

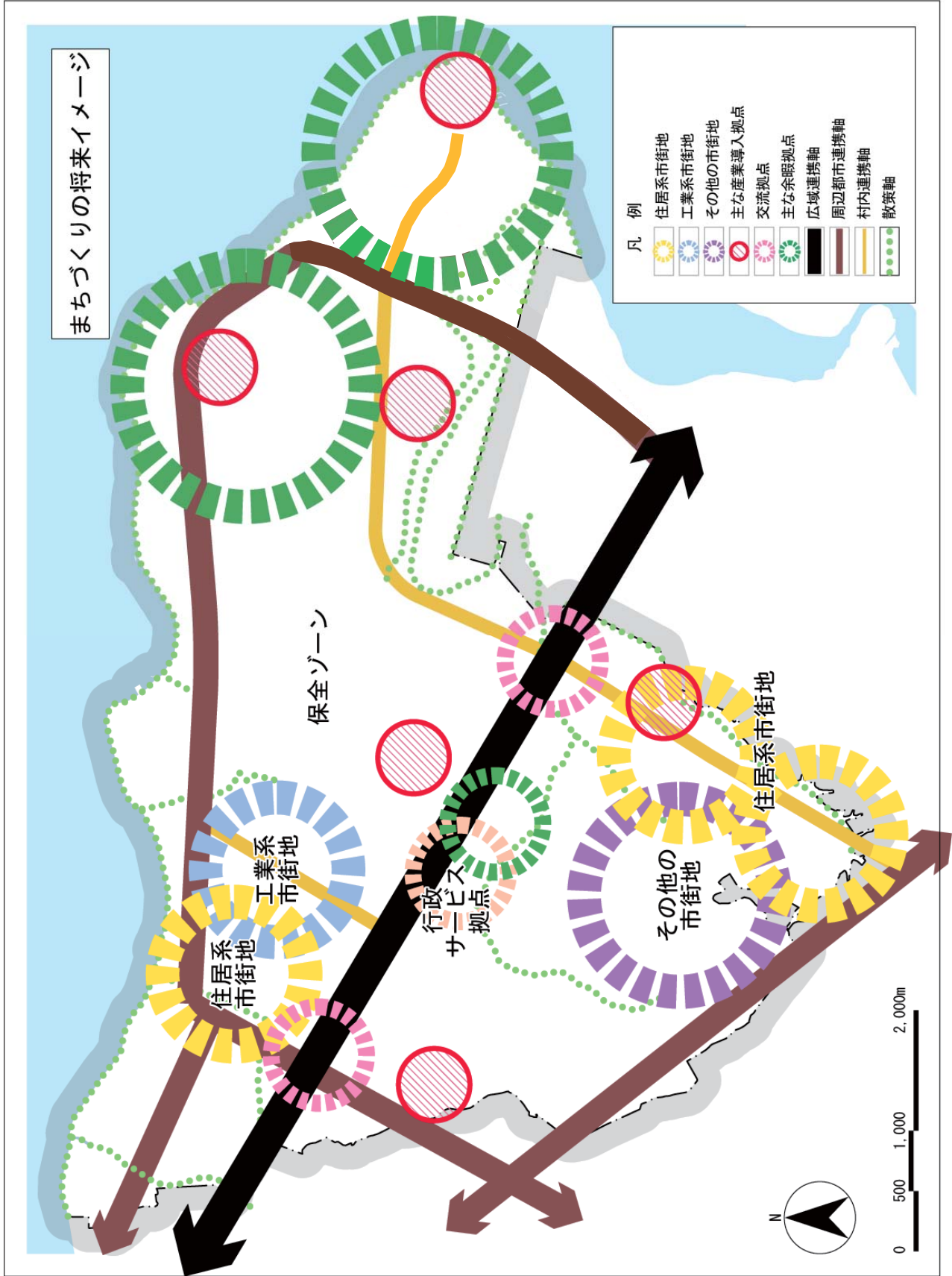
3 無理なく的を絞ったまちづくりを行う

本村は、大都市や拠点都市と比べると行政区域面積や人口規模が小規模な自治体であるため、都市規模に応じて明確に的を絞ってまちづくり施策を展開することが基本となります。

ただし、小規模な自治体であっても、まちづくりの施策展開が不十分であることや、進捗が非常に遅いようでは、村民の満足が得られません。一方、都市規模に不釣り合いな非常に大がかりな施策展開を頻繁に行うのでは、継続性や持続性に課題が生じる可能性があります。

本村は小さな村であることから、同時進行であれこれ無理な展開はせず、まちづくりの施策の優先度を明確にして効果的な施策を厳選し、着実にまちづくりが進み、結果的に良好な都市環境が作られているまちを目指します。





第2章 将来人口

平成22年国勢調査によれば、本村の人口は17,299人です。平成12年まで増加してきた人口は、平成17年以降減少に転じています。

将来の本村の人口については、少子高齢化の影響を受け、現状のまま（自然増減のみ）で推計した場合、目標年次の平成35年には15,200人に減少することになります。（国立社会保障・人口問題研究所推計による。）

このため、今後10年間の計画期間内に、人口の減少を防止し、増加に転じるような施策の展開を図ります。

今後は、本計画に定める六つの柱の施策を推進する中で、特に企業誘致、定住促進、子育てのしやすい環境づくり、高齢者への介護予防支援に重点を置き、本村の魅力を総合的に向上させることにより、定住人口の拡大を目指し、平成35年の将来人口を18,000人と想定します。

美浦村の将来人口：平成35年度 18,000人



- 設定した将来人口：人口減少から人口増加に転じるような施策の展開を行う場合
- 参考：現状のまま（自然増減のみ）で推移した場合

第3章 まちづくりの将来像



1 木原地域

～歴史を生かした湖畔の街並みを育む～

木原地域は、中心市街地として、商業地と研究・工業地、そこに働く人材の住まいなど、かつての賑わいを取り戻すようなまちづくりを進め、木原城址城山公園を中心に浜から街道に沿っての伝統的な建築や史跡などを生かしながら、並木や水路のある新しい街並みの創造を目指します。

この将来像を実現するために、次のプロジェクトを行います。

(1) 活力ある街並みを育む

木原市街地は、市街化区域が定められており、本村の中心として住宅、商店、工場などの都市的な機能を充実させることが必要です。

木原市街地付近において、都市基盤施設や生活基盤の整備を進め、定住人口の受け皿となる住宅地の確保、活力ある地域づくりに貢献する企業誘致、中心市街地らしい便利な暮らしのための商業・サービス業の誘致を図ることが重要です。

(2) 積み重ねられた歴史を大切にする

木原地域には、木原城址、船着き場、木原漁港、神社仏閣などがあり、木原地域の個性的な資源となっています。

歴史に基づいて形成されてきた木原地域の個性的な風格や仕組み、歴史的景観などを伝えることが必要です。

(3) 美しい湖畔と共生する

木原地域の特性として、霞ヶ浦や清明川の水辺資源があります。

木原地域は、水辺と連続する自然資源や田園資源を守り、維持するための土地利用の保全が重要です。また、自然、農業、歴史、景観などの資源をつなぐネットワークが重要です。

まちづくりの将来像 木原地域



木原祇園まつり



一の宮栢縫神社



2 安中地域

～霞ヶ浦と陸平の交流拠点を育む～

安中地域は、水田が地域の周囲を囲むように配置されており、素晴らしい農業景観が広がっています。また、地域のほぼ中央に位置する国史跡陸平貝塚は、古代から続く本村の歴史文化の拠点であり、現在も多くのイベントなどを通して村民に大切にされています。地域内を県道上新田木原線や県道大山江戸崎線、それらをつなぐ村道が地域住民の移動を担っています。また、東京医科歯科大病院跡地などの未利用地が存在しており、今後の活用が期待されます。

(1) 恵み多き霞ヶ浦と共に生きる

安中地域は、本村で最も長い湖岸線を有し、水辺につながる低地や丘陵地など多様な水辺の風景があります。

安中地域は、水辺と連続する自然資源や田園資源を守り、維持するための土地利用の保全が重要です。また、自然、農業、歴史、景観などの資源をつなぐネットワークが重要です。

(2) 先人が残した歴史を活用して交流する

陸平貝塚を始めとする神社仏閣などの歴史資源は、安中地域のみならず本村を代表する誇れる資源となっています。

先人の営みを誇る地域資源を保全し、価値を高めるための工夫が重要です。

また、自然、農業、歴史、景観などの資源をつなぐネットワークが重要です。

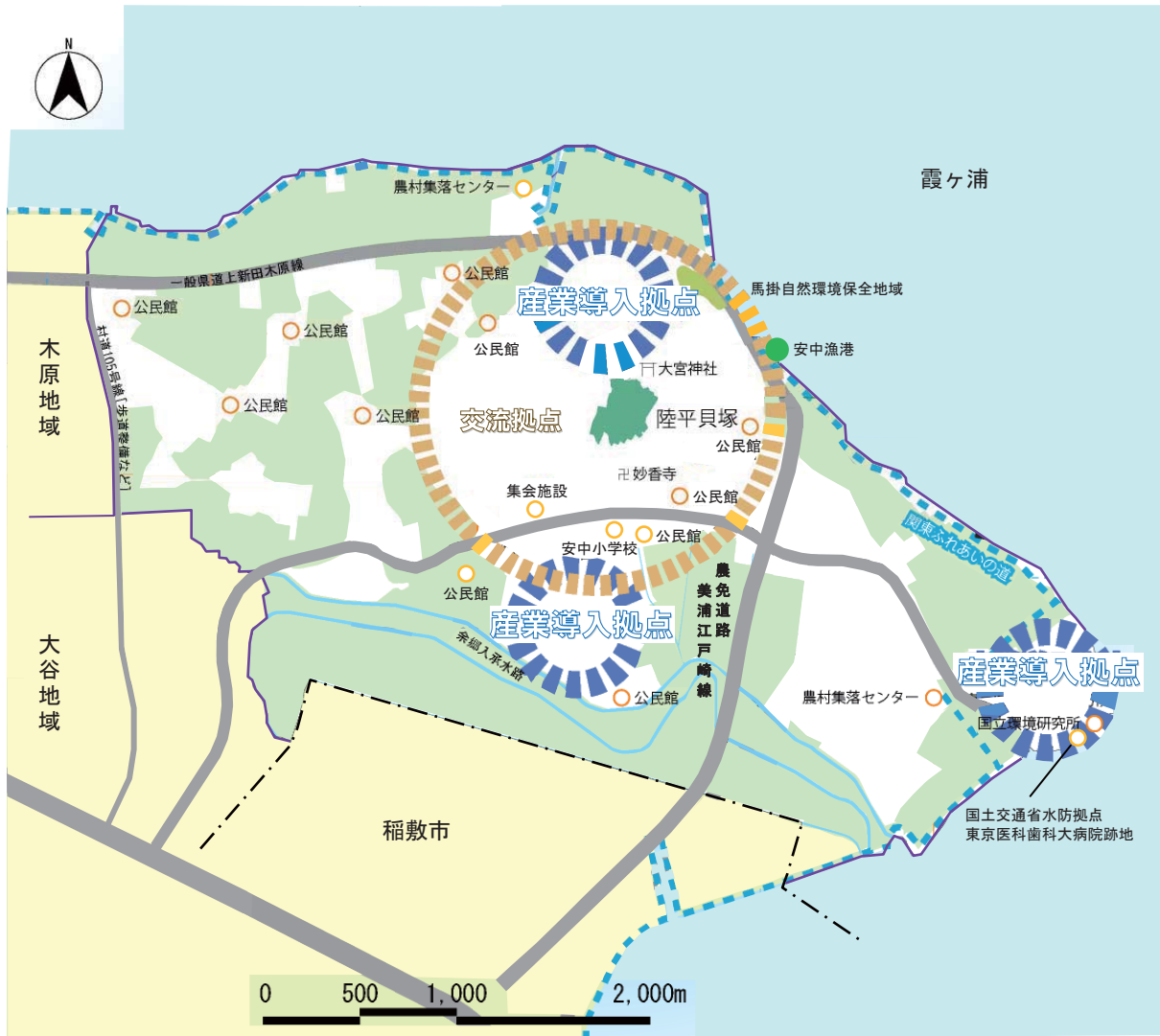
(3) 環境に優しい産業立地で活性化する

安中地域は、風光明媚な地理的条件などにより、一団の村有地や企業などの保有地があり、その有効活用が望まれています。

これらの土地を活用した地域活性化を図るための企業誘致などの取り組みが重要です。

また、地域活性化や利便性向上に役立つ幹線道路ネットワークの整備が重要です。

まちづくりの将来像 安中地域



国指定史跡 陸平貝塚



東京医科歯科大病院跡地
国土交通省水防拠点



3 大谷地域

～緑に引き立つ買い物空間の創出～

大谷地域は、南部にJRA美浦トレーニング・センターが立地し、同位置に住居系市街化区域が配置されています。市街化区域南部には、都市計画道路土屋・新山線が計画されており、隣接市町間移動の利便性が高くなることが期待されます。

また、地域内に多く残る緑を保全・活用することが大切です。国道125号につながる幹線道路沿いの活用も求められている地域です。

(1) 豊かな森に囲まれて暮らす

大谷地域は他の2地域と異なって内陸型の地理条件であり、丘陵地や谷津田などの山林、斜面林、農地など、様々な緑の資源があります。

大谷地域の多様な緑や農業などの土地利用や資源を保全することが重要です。また、自然、農業、歴史、景観などの資源をつなぐネットワークが重要です。

(2) 個性的資源のJRA美浦トレーニング・センターを活かす

大谷地域にあるJRA美浦トレーニング・センターは、大谷地域のみならず本村を代表するシンボルとなっています。

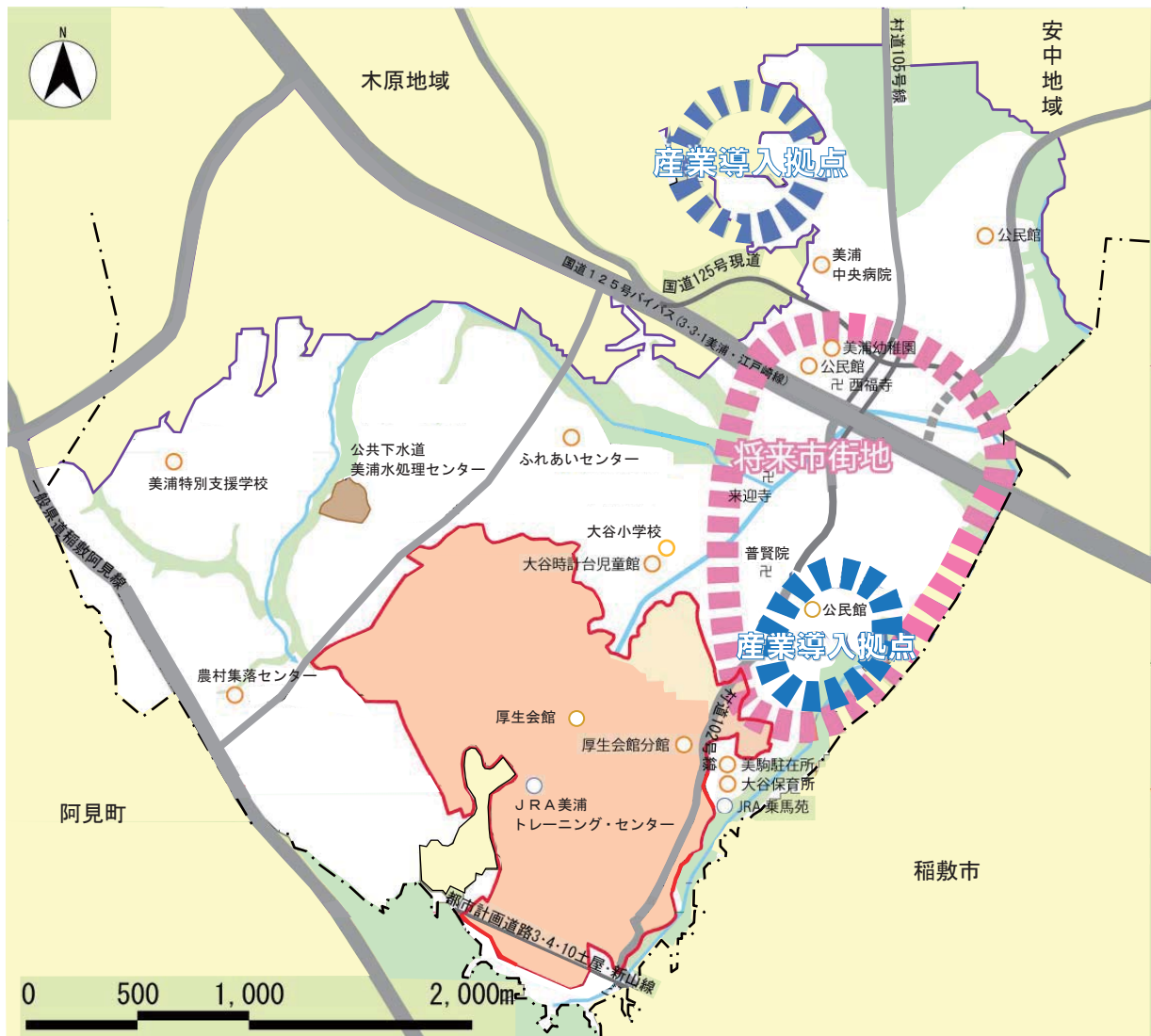
JRA美浦トレーニング・センターに関連する施設や資源をまちづくりや地域活性化に活かすとともに、これらと他地域の資源などを連絡するネットワークの整備が重要です。

(3) 拠点整備で活気を高める

大谷地域では、美駒地区に市街化区域が定められているほか、国道125号バイパスの整備が計画されているなど、交通結節点を活かしたまちづくりへの期待が高まっています。

大谷地域内の交通利便性が高い地区において、新しい交流拠点や産業拠点を整備することで、地域のみならず本村全体の活気を高めることが重要です。

まちづくりの将来像 大谷地域



基本構想
第3章 まちづくりの将来像



調教風景



乗馬苑

JRA 美浦トレーニング・センター

4 幹線道路網 ～首都圏中央連絡自動車道接続の確立～

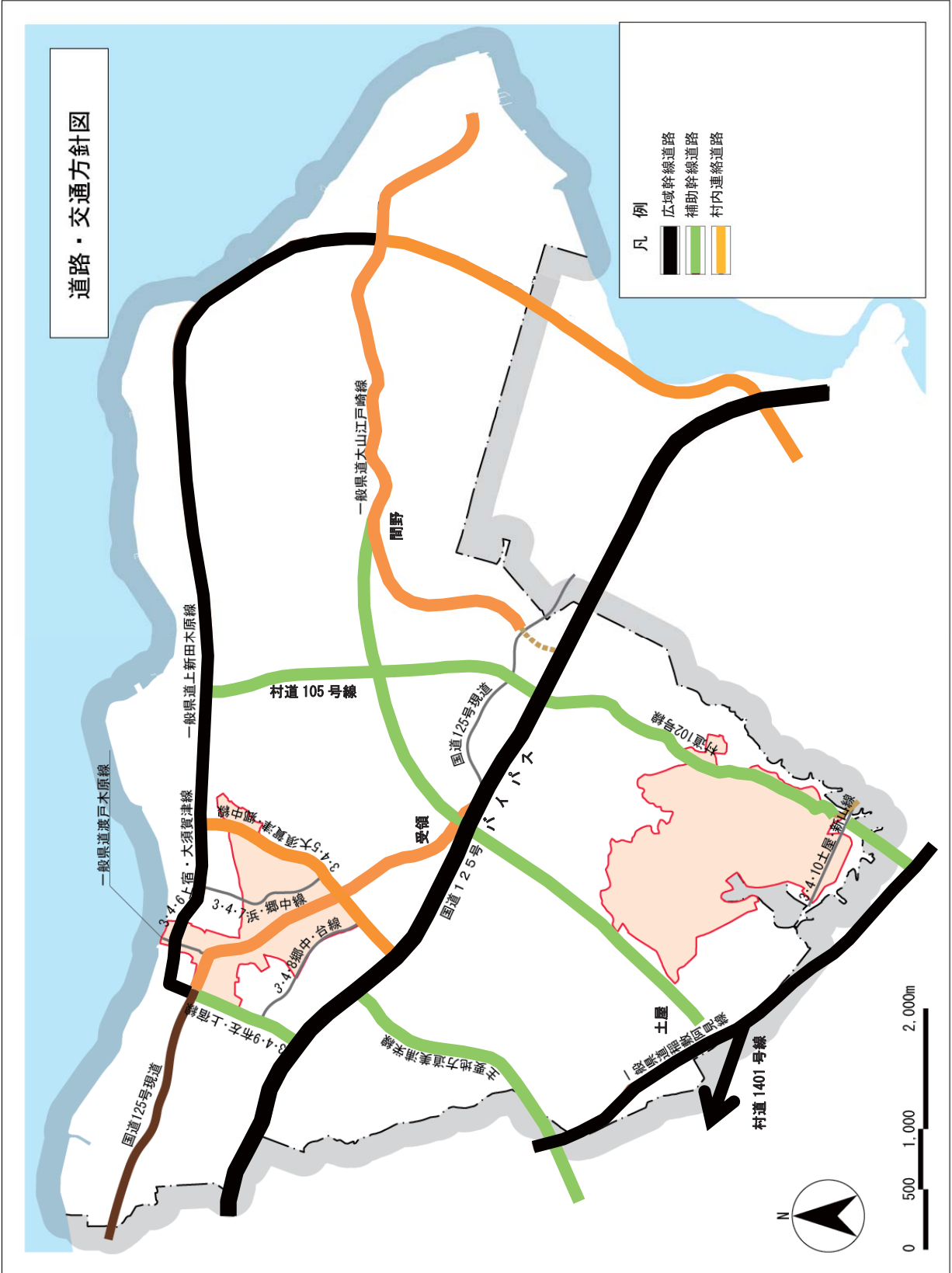
村内の幹線道路は、村民生活の利便性が向上するよう村内の各地区、または生活圏を一体とする隣接市町をつなぐ道路網を形成します。

国道 125 号バイパスを主軸に、これと平行する湖岸の道路、台地の道路は、東西方向の広域幹線道路として位置づけます。

- 湖岸の道路（県道上新田・木原線、都市計画道路上宿・大須賀津線）は、広域的観光・レクリエーション需要に対応できる機能を担う水辺の交流軸として位置づけます。また、霞ヶ浦の広域的活用機能の確保のため、さらに周辺市町と連携を強化し、早期開通を関係機関に要望していきます。
- 台地の道路（県道稲敷・阿見線、村道 1401 号線）は、住宅地や工業地への動線として位置づけます。

東西方向の広域幹線道路に対して、これを南北方向に結ぶ道路は、補助幹線道路として位置づけます。補助幹線道路は、首都圏中央連絡自動車道のインターチェンジへの接続機能を担う道路として位置づけます。

- JRA美浦トレーニング・センター～国道 125 号バイパス～霞ヶ浦湖畔を結ぶ路線の整備
- 都市計画道路布佐・上宿線～県道美浦・栄線（首都圏中央連絡自動車道、阿見東 I Cへ）
- 土屋～トレセン裏門～役場前～受領～間野（首都圏中央連絡自動車道、阿見東 I C、JR常磐線ひたち野うしく駅へ）



第4章 施策の体系

六つの柱

1 美しい村づくり[環境保全／歴史・伝統文化]

本村には、霞ヶ浦に代表される水辺、緑豊かな里山など、美しい自然環境が多く残っています。豊かに残った自然を保全し、壊れてしまった自然を取り戻し、より暮らしやすい生活環境をつくらなければなりません。大気汚染や土壌汚染、地球温暖化など深刻化する環境問題に対しては、村民・事業者・行政が一体となって取り組む必要があります。

分別収集によるごみの減量化・資源化・リサイクルの推進や再生可能エネルギーの活用など、環境保全の重要性を一人ひとりが意識して取り組むことが重要です。



大須賀津湖畔農村公園
から木原方面

また、自然とともに村の歴史・伝統文化を守り伝えるため、文化財センターの利用促進や陸平貝塚の周辺整備をはじめ、ボランティアの育成を行い、地域の歴史遺産と伝統を大切にし、これらを生かしていきます。



美浦村文化財センター



里山交流館（陸平貝塚）

2 子どもの健やかな成長を支える村づくり[児童福祉／学校教育]

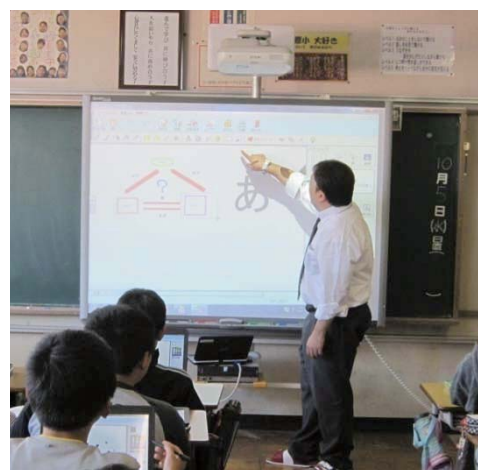
村の将来を担う子どもたちは地域の大切な財産です。このため、地域住民と連携し、少子化に対応した保育サービスや子育て支援策の充実を図るなど、地域で楽しく遊べ、楽しく学べる社会をつくる必要があります。子育て情報の発信や仲間づくりの支援、保護者の需要に応じた保育環境の充実、児童館を活用した放課後児童の健全育成・交流事業などを行っていきます。

学校教育では、人と人がつながり社会を作る力である「社会力」育てを意識した教育を展開することが重要と考えます。子どもたち一人ひとりが社会力を身につけることは、他者を思いやる心や地域へ貢献するという意識を醸成することにつながり、結果的に今日的な課題となっているいじめなどの様々な問題の解決や学習意欲の向上、さらには学力の向上に大きな役割を果たすことが期待されます。

また、子どもたちの学習意欲を高め、知的好奇心を促すため、電子黒板やタブレットPCなどのICT機器を効果的に利用した授業を充実させていきます。



授業風景（タブレットPC）



授業風景（電子黒板）

3 長く生きがいを持って暮らせる村づくり[生涯学習／健康づくり]

高齢化社会が進む中、生涯にわたって充実した人生を送るため、幾つになっても学び喜びを実感できるような学習の機会の確保や、健康づくりのためのスポーツに対する多様化したニーズなど、生きがいづくりへの関心が高まっています。

また、村民一人ひとりが抱える潜在的な健康や福祉の問題は多く、介護が必要になる前の予防や健康づくりなど、高齢者への介護予防支援の取り組みに対する環境づくりが必要です。

生涯学習では、中央公民館を中心に学習・文化活動の環境づくり、光と風の丘公園を中心にスポーツ活動の環境づくりに努め、健康づくりでは保健センターを中心に村民の健康管理について、保健・医療・福祉の連携によるきめ細やかな体制づくりを進めていきます。



グラウンドゴルフ

4 共に支え合う村づくり[地域交流・地域福祉]

本村のコミュニティ活動は、行政区で組織された「区」が中心になり、積極的な地域活動が行われています。また、伝統文化・芸術・スポーツ団体の活動、ボランティアによる活動のほか、環境保全や福祉、交流事業等の活動など、目的に応じて組織された各種コミュニティ活動が行われています。

しかし、核家族化や価値観の変化とともに、かつての地域社会における血縁的、地縁的な相互扶助意識が低下している中、平成23年3月に発生した東日本大震災を機に、これまで以上に身近な地域社会において人と人が支え合い、互いに助け合う役割が見直されてきています。

村民が尊厳を持って自主的に生活しながら、互いに支え合う地域社会を目指し、村民同士の各種交流活動の支援・促進を図るとともに、社会保障制度の維持・運用や公共施設のバリアフリー化など生活環境の整備、ボランティア活動などによる地域福祉体制の充実などを、美浦村社会福祉協議会と連携して進めていきます。

また、誰もが安心・安全に生活できるように、防犯・防災組織の強化や交通事故防止対策、公共交通環境の充実などを進めていきます。



美浦村防災訓練

5 元気で活力ある地域産業の形成[産業]

農林水産業は、食糧生産だけにとどまらず、環境・景観の保全や防災、地域振興、教育など多面的な機能を有しており、意欲ある担い手の育成や生産基盤の強化、平地林整備等自然環境との共生を図った事業を行うことが必要となります。

産業の枠を超えて消費者が安心・満足できる商品を提供し、地元で消費してもらう「地産地消」を産業振興の核に、若年層がやりがいを持って取り組める営農環境の確立、企業・産業間の交流促進や研究機関との技術交流の支援による商工業の基盤充実を行います。

さらに、本村の立地条件や交通インフラなどの魅力を活かして新たな企業誘致を進め、経済基盤の充足に加え、定住促進や雇用の場の創出を図っていきます。



安中いちご



特別栽培米の刈り取り

6 みんなが一体となって進める村づくり [住民参加／人権尊重／男女共同参画]

魅力あるまちづくりを行うためには、村民一人ひとりが地域に愛着を感じ、村民と行政がそれぞれの役割分担を明確にし、お互いに信頼のうえ協働によるまちづくりを進める必要があります。

近年、虐待やいじめなどの人権侵害が大きな社会問題となっており、人権に対する正しい理解と行動がとれるよう人権教育・啓発活動に取り組んでいきます。

また、社会情勢の変化や経済社会のグローバル化などに伴う課題を解決するためにも、男女が平等な立場に立って、個性と能力を生かし、充実した生き方を選択できる男女共同参画社会の実現が必要不可欠です。

そのためにも、村民、事業者、行政が一体となって、まちづくりの活動に村民が積極的に参加できるように、社会参加機会の創出、社会活動の支援を図るとともに、まちづくりの情報を広報みほやパブリックコメントの実施、村ホームページの活用などによりわかりやすく伝えていきます。

また、男女共同参画社会の進展を図るほか、ボランティアやNPOの育成・支援を進めていきます。



環境美化活動

